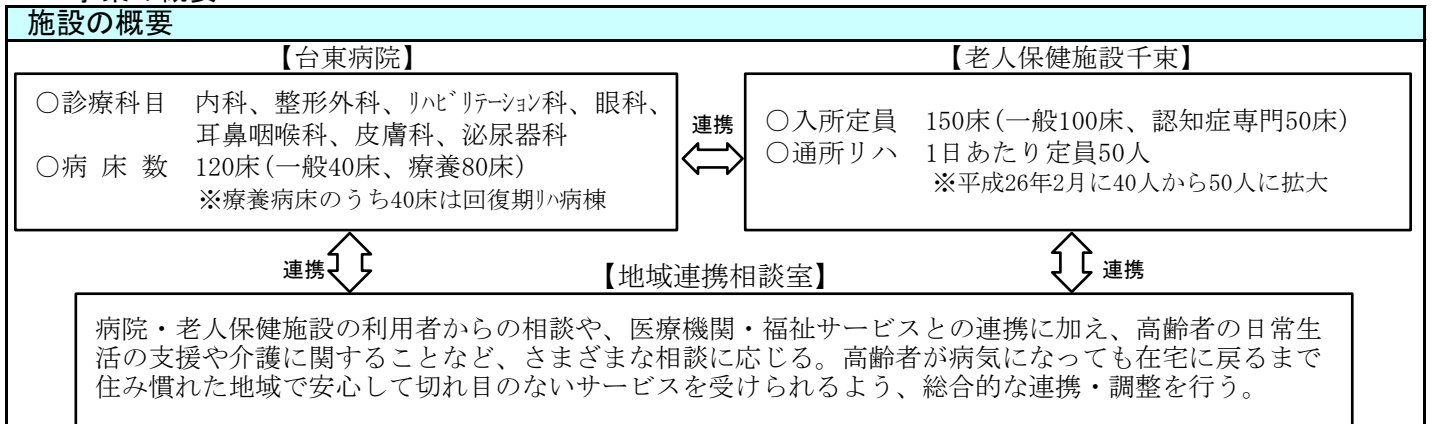


平成29年度 台東区立台東病院及び老人保健施設千束 運営評価表
(平成28年度実績の評価)

施設名	台東区立台東病院・老人保健施設千束
事業開始年度	平成21年度
開設者	台東区（病院所管課：健康部健康課、老健所管課：福祉部高齢福祉課）
指定管理者	公益社団法人地域医療振興協会
評価の目的	サービスの提供の効果等について、記録、測定又は分析し、一定の基準に照らして客観的に評価・検証することにより、業務・運営等を継続的に改善させる。
評価内容	○新台東病院等整備基本計画に定める基本理念を的確に反映しているか。 ○基本協定書に基づき、保健・医療・福祉機能とその役割を適切に果たしているか。 ○地域に開かれた施設になっているか。
評価項目	①役割・機能、②効率性・経済性、③計画性・改善状況等

1 事業の概要



施設の基本理念

- 高齢者が住み慣れた地域で療養できるよう、高齢者の慢性疾患に対応する病院と在宅復帰に必要な入所施設を一体的に確保します。
- 高齢者がいつまでも自分らしく、安心した在宅生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉サービスを提供します。
- 高齢者が施設や在宅で必要な保健・医療・福祉サービスを円滑に利用できるよう、サービスの担い手との連携を積極的に推進します。
- 安心して子育てができるよう、医療の面から支援します。
- 快適な療養環境や質の高いサービスを効率的に提供します。
- 『運営の透明性』、『区民に対する説明責任』を確保し、上記の理念が適切に果たされていることを区民の視点に立って評価・検証します。

基本方針

台東病院	<ul style="list-style-type: none"> ○総合医を中心としたチームによる医療を提供します。 ○利用者本位で、満足度の高い医療を提供します。 ○関係機関との連携を推進し、安心して在宅生活を送れるよう、医療を提供します。 ○医療従事者の育成と資質の向上に努めます。 ○区の小児初期救急医療のしくみを補完します。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。
老健千束	<ul style="list-style-type: none"> ○良質で包括的なサービスを提供します。 ○利用者の人格及び意思を尊重し、快適で質の高い療養・介護環境を提供します。 ○地域の福祉関連機関との連携のもと、円滑な在宅復帰を目指します。 ○病院に併設されていることの利点を最大限に活かします。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。

2 指定管理者の運営理念等

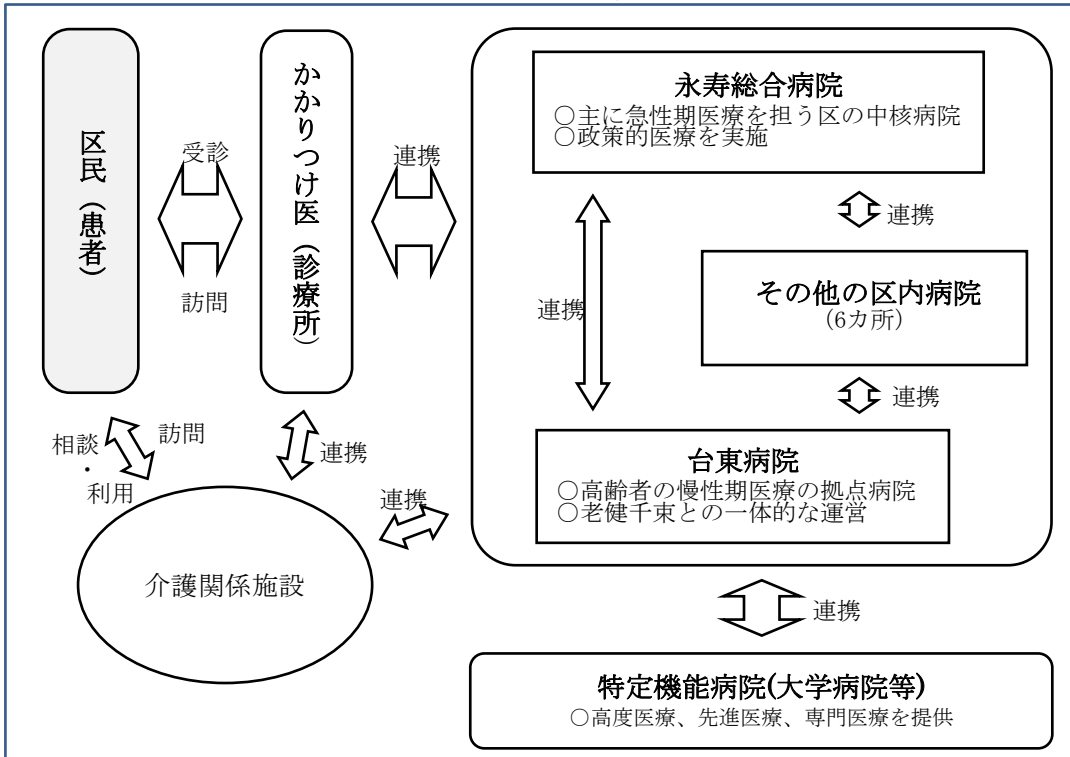
運営理念

『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します

運営基本方針

- 高齢者医療に力をいれます
- 在宅医療を支援します
- まずは受け入れるという姿勢を持ちます
- 地域と連携してサービスを提供します
- 医療に恵まれない地域の支援を行います

<医療機関等の連携体制>



3 事業の現況とその推移

(1) 経営の状況

(1,000円未満を四捨五入、単位：千円)

区分		26年度	27年度	28年度	前年度比	主な計上科目	
台東病院	収益	医業収益	1,883,345	1,933,253	1,942,504	9,251	入院・外来収益等
		医業外収益	136,958	154,927	134,669	△ 20,258	指定管理料・売店収益等
		合計	2,020,303	2,088,180	2,077,173	△ 11,007	
		(うち指定管理料)	44,280	44,280	44,280	0	指定管理料
	費用	医業費用	1,952,628	2,042,329	2,053,293	10,964	給与費・材料費・委託費等
		医業外費用	69,381	68,447	60,661	△ 7,786	売店運営費用
		合計	2,022,009	2,110,776	2,113,954	3,178	
	損益	医業損益	△ 69,283	△ 109,076	△ 110,789	△ 1,713	—
		医業外損益	67,577	86,480	74,008	△ 12,472	—
		合計	△ 1,706	△ 22,596	△ 36,781	△ 14,185	
老健千束	収益	事業収益	877,016	899,548	880,323	△ 19,225	入所・通所リハ収益等
		事業外収益	4,974	5,190	5,142	△ 48	患者外給食委託費等
		合計	881,990	904,738	885,465	△ 19,273	
		(うち指定管理料)	0	0	0	0	—
	費用	事業費用	758,074	776,770	787,032	10,262	給与費・材料費・委託費等
		事業外費用	25,452	21,552	14,055	△ 7,497	患者外給食委託費等
		合計	783,526	798,322	801,087	2,765	
	損益	事業損益	118,942	122,778	93,291	△ 29,487	—
		事業外損益	△ 20,478	△ 16,362	△ 8,913	7,449	—
		合計	98,464	106,416	84,378	△ 22,038	
全体	収益	事業収益	2,760,361	2,832,801	2,822,827	△ 9,974	
		事業外収益	141,932	160,117	139,811	△ 20,306	
		合計	2,902,293	2,992,918	2,962,638	△ 30,280	
		(うち指定管理料)	44,280	44,280	44,280	0	
	費用	事業費用	2,710,702	2,819,099	2,840,325	21,226	
		事業外費用	94,833	89,999	74,716	△ 15,283	
		合計	2,805,535	2,909,098	2,915,041	5,943	
	損益	事業損益	49,659	13,702	△ 17,498	△ 31,200	
		事業外損益	47,099	70,118	65,095	△ 5,023	
		合計	96,758	83,820	47,597	△ 36,223	

収支の概要

台東病院	<p>前年度と比べ、医業収益は約925万円(0.5%)増の19億4,250万円、医業費用は約1,096万円(0.5%)増の20億5,329万円で、医業損益は約171万円悪化し1億1,079万円の赤字となった。</p> <p>医業外収益は約2,026万円(13.1%)減の1億3,467万円(指定管理料4,428万円を含む)、医業外費用は約779万円(11.4%)減の6,066万円で、医業外損益は約1,247万円(14.4%)減の7,401万円の黒字となった。</p> <p>この結果、台東病院全体の損益は約1,419万円減の3,678万円の赤字となった。</p>
老健千束	<p>前年度と比べ、事業収益は約1,922万円(2.1%)減の8億8,032万円、事業費用は1,026万円(1.3%)増の7億8,703万円で、事業損益は約2,949万円(24.0%)減の9,329万円の黒字となった。</p> <p>事業外収益は約5万円(1%)減の514万円、事業外費用は約750万円(34.8%)減の1,405万円で、事業外損益は約745万円(45.5%)減の891万円の赤字となった。</p> <p>この結果、老健千束全体の損益は約2,204万円減の8,438万円の黒字となった。</p>

(2) 運営の状況

① 役割・機能

【台東病院】

区分		26年度	27年度	28年度	前年度比	備考
体制	職員数	136.5人	145.8人	147.5人	1.7人	○年度末を基準とする ○常勤医師以外は常勤換算人数 ○職員数合計は医師、看護・介護職員、リハビリ職員の合算
	医師	18.5人	18.8人	16.5人	△2.3人	
	常勤医師	11人	12人	9.5人	△2.5人	
	非常勤医師	7.5人	6.8人	7.5人	0.7人	
	総合医(再掲)	11.3人	12.4人	10.7人	△1.7人	
	看護・介護職員	94人	100人	103人	3人	
	リハビリ職員	24人	27人	28人	1人	
入院	病床利用率	90.5%	93.6%	91.6%	△2.0%	病床利用率=入院延患者数÷延病床数×100
	一般	86.4%	90.2%	88.9%	△1.3%	
	回復期リハ	92.6%	93.9%	92.5%	△1.4%	
	療養	92.4%	96.7%	93.4%	△3.3%	
	延べ入院患者数	39,626人	41,115人	40,117人	△998人	平成28年度に新たに入院された患者数
	50歳代以下	11.6%	12.5%	10.8%	△1.7%	
	60歳代	14.4%	13.2%	10.4%	△2.8%	
	70歳代	24.4%	20.5%	20.4%	△0.1%	
	80歳代	33.2%	36.4%	38.4%	2.0%	
	90歳代以上	16.4%	17.4%	20.0%	2.6%	
	新入院患者数	1,091人	1,078人	1,145人	67人	平成28年度に新たに入院された患者数
	一般	901人	891人	933人	42人	
	回復期リハ	143人	149人	159人	10人	
	療養	47人	38人	53人	15人	
平均在院日数	36.6日	38.1日	34.9日	△3.2日	延入院患者数÷{(新入院患者数+退院患者数)÷2}	
一般	15.8日	17.0日	16.4日	△0.6日		
回復期リハ	75.3日	69.3日	57.9日	△11.4日		
療養	129.1日	137.5日	111.3日	△26.2日		
台東区民の占める割合	83.1%	85.7%	87.4%	1.7%		
回復期リハ病棟の在宅復帰率	82.7%	80.8%	85.9%	5.1%	1年間分	
外来	延べ患者数	76,557人	80,761人	76,713人	△4,048人	
	1日平均患者数	261.3人	274.7人	261.8人	△12.9人	延べ患者数÷外来診療日数
	初診患者数	13,243人	12,720人	11,684人	△1,036人	初診料を算定した患者数
	新患率	17.3%	15.8%	15.2%	△0.6%	初診患者数÷延患者数×100
	台東区民の占める割合	83.1%	88.2%	88.4%	0.2%	
	初期救急患者数	921人	960人	1,020人	60人	
	救急車受入数	344人	340人	308人	△32人	
来院患者数	577人	620人	712人	92人		

【老健千束】

区分		26年度	27年度	28年度	前年度比	備考
体制	職員数	85人	85.5人	82.8人	△2.8人	○年度末を基準とする ○全て常勤換算人数
	医師	2人	1.5人	1.5人	0.0人	
	介護・看護職員	75人	75.5人	76.8人	1.3人	
	リハビリ職員	8人	8.5人	8.5人	0.0人	
入所	入所利用率	95.2%	95.4%	91.6%	△3.8%	延入所者数÷延ベッド数×100
	1日あたり短期入所者数	8.3人	8.5人	9.9人	1.4人	延短期入所者数÷365日
	延べ入所者数	52,095人	52,401人	50,166人	△2,235人	延べ入所者数は長期入所と短期入所(ショートステイ)の合算
	60歳代以下	3.7%	3.0%	1.9%	△1.1%	
	70歳代	10.8%	6.6%	10.0%	3.4%	
	80歳代	38.3%	44.1%	44.1%	0.0%	
	90歳代以上	47.2%	46.3%	44.0%	△2.3%	
	平均在所日数	366.1日	316.3日	264.2日	△52.1日	入所延べ日数÷{(新規入所者数+退所者数)÷2} ※1年間分
	回転率	8.3%	9.6%	11.5%	1.9%	年間平均暦日数÷平均在所日数×100
	台東区民の占める割合	99.9%	99.9%	99.9%	0%	
在宅復帰率	34.1%	45.7%	28.6%	△17.1%	退所先が自宅やグループホーム等の割合	
通所	1日あたりの利用者数	40.3人	42.3人	42.5人	0.2人	延利用者数÷通所営業日数
	台東区民の占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	0%	

【連携等】

区分		26年度	27年度	28年度	前年度比	備考	
地域連携相談室	職員数	9.0人	8.0人	9.0人	1人	全て常勤換算人数	
	社会福祉士	3.0人	2.0人	2.0人	0人		
	支援相談員	2.0人	2.0人	2.0人	0人		
	介護支援専門員	2.0人	2.0人	2.0人	0人		
	事務員	2.0人	2.0人	3.0人	1人		
	相談件数	1,729件	1,703件	1,789件	86件	主たる内容により区分	
	入院（一般）	953件	953件	933件	△20件		
	入院（回復期リハ）	304件	302件	317件	15件		
	入院（療養）	146件	142件	157件	15件		
	入所	215件	199件	202件	3件		
通所	111件	107件	180件	73件			
紹介	入院患者	544人	537人	616人	79人	○検査依頼を除く、医師の紹介状（診療情報提供書）を持参した患者数 ○紹介率＝（紹介状持参患者数＋救急患者数）÷初診料算定患者数 ＝15.9%	
	一般	362人	366人	415人	49人		
	回復期リハ	139人	138人	149人	11人		
	療養	43人	33人	52人	19人		
	診療所からの紹介（再掲）	167人	181人	173人	△8人		
	外来患者	952人	888人	929人	41人		
	病院から	476人	438人	474人	36人		
	診療所から	434人	417人	433人	16人		
施設から	42人	33人	22人	△11人			
逆紹介	入院患者	376人	407人	404人	△3人		○診療情報提供料を算定した患者数（返送患者を含む） ○紹介率＝（紹介状持参患者数＋救急患者数）÷初診料算定患者数 ＝14.0%
	一般	186人	217人	211人	△6人		
	回復期リハ	138人	132人	136人	4人		
	療養	52人	58人	57人	△1人		
	診療所への逆紹介（再掲）	164人	189人	160人	△29人		
	外来患者	1,279人	1,156人	1,226人	70人		
	病院へ	919人	873人	897人	24人		
	診療所へ	227人	162人	213人	51人		
施設へ	14人	5人	15人	10人			
宛名なし等	119人	116人	101人	△15人			
返送	入院患者	136人	159人	138人	△21人	診療情報提供書を持参した患者のうち、入院後、紹介元医療機関等に返送（診療情報提供料を算定）した患者数	
	一般	71人	88人	72人	△16人		
	回復期リハ	51人	53人	46人	△7人		
	療養	14人	18人	20人	2人		
	診療所への返送（再掲）	81人	101人	84人	△17人		
入退院患者・入退所者の経路	新入院患者	自宅から	50.1%	50.2%	46.3%	△3.9%	新入院患者の総数は、 26年度1,091人、27年度1,078人、28年度1,145人
		診療所からの紹介	15.3%	16.8%	15.1%	△1.7%	
		他病院からの紹介	23.2%	23.6%	26.7%	3.1%	
		福祉施設等から	7.2%	5.0%	6.5%	1.5%	
		老健千束から	4.1%	4.4%	5.4%	1.0%	
	退院患者	自宅へ	49.0%	45.4%	43.8%	△1.6%	退院患者の総数は、 26年度1,076人、27年度1,084人、28年度1,151人
		診療所への逆紹介	15.2%	17.8%	13.9%	△3.9%	
		他病院への転院	7.0%	7.1%	7.8%	0.7%	
		他病院の外来への紹介	5.6%	5.6%	4.0%	△1.6%	
		福祉施設等へ	7.2%	7.1%	9.6%	2.5%	
		老健千束へ	5.9%	7.9%	8.5%	0.6%	
		看取り	10.2%	9.1%	12.4%	3.3%	
	新入所者	自宅から	34.0%	35.7%	26.0%	△9.7%	新入所者の総数は、 26年度162人、27年度168人、28年度177人
		福祉施設等から	4.3%	3.6%	2.3%	△1.3%	
		台東病院から	39.8%	45.8%	44.0%	△1.8%	
		他の病院から	22.8%	14.9%	27.7%	12.8%	
退所者	自宅へ	21.5%	37.7%	20.3%	△17.4%	退所者の総数は、 26年度163人、27年度167人、28年度202人	
	福祉施設等へ	30.7%	22.7%	31.2%	8.5%		
	台東病院へ	27.6%	20.4%	27.7%	7.3%		
	他の病院へ	7.9%	5.4%	8.9%	3.5%		
看取り	12.3%	13.8%	11.9%	△1.9%			
緊急一時病床利用者数		190人	185人	200人	15人	うち在宅療養患者の受入は84人	
退院前カンファレンス件数		95件	84件	197件	113件	多職種による検討会の実施件数	
訪問リハビリテーション延利用者数		2,353人	2,480件	2,472件	△8人	平成23年2月より実施	

②経営分析

区分		26年度	27年度	28年度	前年度比	備考	
台東病院	経常収支比率	99.9%	98.9%	98.3%	△0.6%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	2.2%	2.1%	2.1%	0.0%	指定管理料÷総費用×100	
	医業収益に対する職員給与費比率	69.9%	71.6%	73.0%	1.4%	職員給与費÷医業収益×100	
	医業収益に対する委託費比率	6.8%	5.6%	5.1%	△0.5%	委託費÷医業収益×100	
	医業収益に対する材料費比率	12.6%	14.1%	14.4%	0.3%	材料費÷医業収益×100	
	病床利用率	90.5%	93.6%	91.6%	△2.0%	入院延患者数÷延病床数×100	
	1日外来患者数	261.3人	274.7人	261.8人	△12.9人	延患者数÷外来診療日数	
	入院患者1人1日あたり診療収入	30,167円	29,991円	31,544円	1553円	入院収益÷入院延患者数	
	外来患者1人1日あたり診療収入	6,715円	6,555円	6,723円	168円	外来収益÷外来延患者数	
	医師1人1日あたり診療収入	252,260円	272,032円	291,807円	19,775円	(入院収益+外来収益)÷年延医師数	
	看護・介護職員1人1日あたり診療収入	48,220円	51,448円	45,530円	△5,918円	(看護・介護職員数)	
	CT	稼働率	74.6%	76.5%	84.3%	7.8%	稼働率=検査件数÷(1日あたり検査可能件数(12件)×外来診療日数)×100
		検査件数	2,624件	2,698件	2,965件	267件	
		うち検査依頼受付件数	148件	252件	289件	37件	
MRI	稼働率	64.3%	65.4%	66.7%	1.3%		
	検査件数	2,260件	2,307件	2,345件	38件		
	うち検査依頼受付件数	202件	241件	245件	4件		
老健千束	事業収支比率	112.6%	113.3%	110.5%	△2.8%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	0%	0%	0%	0%	指定管理料÷総費用×100	
	事業収益に対する職員給与費比率	51.9%	53.2%	56.2%	3.0%	職員給与費÷事業収益×100	
	事業収益に対する委託費比率	17.7%	13.0%	13.5%	0.5%	委託費÷事業収益×100	
	入所利用率	95.2%	95.4%	91.6%	△3.8%	入所延患者数÷延ベッド数×100	
	1日通所利用者数	40.3人	42.3人	42.5人	0.2人	延利用者数÷通所運営日数	
	入所者1人1日あたり事業収益	14,468円	14,427円	14,635円	208円	入所収益÷入所延患者数	
	通所者1人1日あたり事業収益	10,862円	10,863円	10,983円	120円	通所収益÷通所延患者数	

③計画性・改善状況等

区分		26年度	27年度	28年度	前年度比	備考
講演会開催数		17件	17件	17件	0件	街角健康教室、在宅ケア教室
その他区民向けイベント開催数		18件	12件	12件	0件	ミニコンサート、看護の日イベント等
投書件数		36件	58件	66件	8件	
	謝意	3件	23件	28件	5件	
	助言	11件	13件	8件	△5件	
	苦情	22件	22件	30件	8件	

主な意見と対応

- 【謝意】○ 1人暮らしの母の世話をし続けてきたが、将来が不安であったが、5階の療養病棟に入院し、スタッフの皆様のおかげで心強い家族のように思う。母子ともに安心して眠れるようになり感謝している。
- 5階の療養病棟に入院中の母のリハビリスタッフが、自分もリハビリ室に誘ってくれ感謝した。母の顔も以前に比べしっかりしている。丁寧に見てくれて感謝している。
- 【助言】○ 駐車場の利用案内をわかりやすくしてほしい。
⇒ 駐車場利用時のサービス券発行について文章のみであったが交換場所等図面、写真を加えた。
- 【苦情】○ 予約外受診で2時間以上待たされた。患者がいない時間帯もあったようだがその間に診察できないのか。
⇒ 空き時間には、予約外患者の診察を行っている。今後も、待ち時間短縮に取り組んでいく。
- 通所リハビリテーションのお吸い物の味が薄い。おいしくしてほしい。
⇒ 塩分系で計測、確認してから提供するようにした。また、調理担当や栄養士がご意見をお聞きし、食事内容、味の見直しに努めることとした。

④その他

居宅介護支援事業所千束（自主事業）

関係機関と連携しながら、『治療から介護へ』、『施設ケアから在宅ケアへ』とサービスを提供する上で、より迅速に質の高いサービスを提供するため、平成23年12月より居宅支援事業の運営を開始した。開設時よりケアマネジャー1名体制だったが、平成28年度には法定定員の35ケースに達し、ニーズもあるため平成29年1月よりケアマネジャーを2名体制へ増員した。平成29年3月末日の登録者数は42名で、内訳は要介護度1が19名、要介護度2が13名、要介護度3が5名、要介護度4が2名、要介護度5が3名で、主な業務内容は登録者や家族との面談、ケアプランの作成、サービス事業者の紹介・調整等を行っている。

4 評価

【評価の段階】

A	目的・要求等を十分に満たしている状態
B	目的・要求等を概ね満たしている状態
C	目的・要求等に対し補う必要がある状態

(1) 役割・機能の評価

①台東病院が慢性期医療を担う拠点病院として機能しているか ※医療連携については別途評価	
【参考指標】入院患者、外来患者の実績(P4)など	
事業者 評価 A	根拠 前年度と比べ、病床利用率、外来患者数が若干下降しているが、初期救急患者数は60人(6.3%)増の1,020人で、入院患者の約8割は70歳以上となった。また新入院患者数が67人(6.2%)増の1,145人、平均在院日数が病棟全体で3.2日(8.4%)減の34.9日となったことで、病棟回転率が上昇した。急性期病院からの回復期・慢性期病棟への受入や、在宅復帰へ向けた多職種による在宅での医療環境の調整、支援、それらに必要な訪問リハビリ、訪問看護の体制を整えており、慢性期医療を担う拠点病院として機能していたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 入院部門については、全病床の合計利用率は90%を超え堅調に推移しており、新入院患者数、台東区民の占める割合及び在宅復帰率については上昇している。外来部門についても、患者数は堅調に推移しており、台東区民の患者の割合も上昇している。 また、多職種による調整や支援により在宅復帰へ向けた体制を整えている等、慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。

②老人保健施設千束が在宅復帰に向けた入所施設として機能しているか ※地域との連携については別途評価	
【参考指標】入所者の実績(P4)など	
事業者 評価 A	根拠 平成28年度は、9月に近隣に特別養護老人ホームが開設したため、そちらへの入所等の影響もあり在宅復帰率が低下した。(病院から特養へ退院した場合は、在宅復帰者としてカウントされるが、老健から特養へ退所した場合は、在宅復帰者としてカウントされない為。)しかし、昨年に引き続き相談員やケアマネ等が入所者、家族に対して、いくつかの選択肢を提示しながら丁寧な説明を行う等スタッフが一丸となって退所支援の充実を図ったことにより、特養開設前の上半期の在宅復帰率は34.4%(目標値30%)であり、年間でも28.6%であったことから在宅復帰に向けた入所施設として機能していたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 近隣に特別養護老人ホームが新規開設したことで、老健からそちらへ移る方が増え、在宅復帰率は低下した。しかし、例年とは違う状況においても、スタッフが一丸となって退所支援の充実を図ったことにより、在宅復帰率について上半期は目標値を超え、年間でも目標値に迫る数値まで改善していることから、在宅復帰に向けた施設として機能していたと評価できる。

③医療機関等との連携は適切に行われているか	
【参考指標】医療連携の実績(P5)など	
事業者 評価 A	根拠 前年度と比べ、逆紹介した入院患者数は3人(0.7%)減の404人、返送した入院患者数は21人(13.2%)減の138人であったものの、紹介された外来患者数は41人(4.6%)増の929人、逆紹介した外来患者数は70人(6.1%)増の1,226人、緊急一時病床利用者数は15人(8.1%)増の200人となっている。また、多職種連携による退院前カンファレンスは113件(134.5%)増の197件となり、医療機関に留まらない在宅生活を送るための社会資源との連携も広がっていることから、適切に行われていると認識している。
協議会 評価 A	根拠 前年度と比べ、入院部門の逆紹介、返送件数は減少したが、入院部門の紹介、外来部門の紹介、逆紹介件数及び緊急一時病床利用者数は増加している。 また、多職種連携による退院前カンファレンスの件数は前年度に比べ大幅に増加しており、連携は適切に行われていたと評価できる。

④台東病院と老人保健施設千束が連携しながら、互いの機能を効果的に発揮しているか

【参考指標】入退所経路の実績(P5)など

事業者 評価	根拠	<p>前年度と比べ、入院患者・入所者の施設間の移動は、台東病院から老健千束へは12人(14.0%)増の98人、老健千束から台東病院へは22人(64.7%)増の56人となった。また、平成28年度より、重症の方は療養病棟、軽症の方は老健で受入れるという取り組みを強化した結果、療養病棟入院基本料の施設基準を2から1へ変更するに至り、複合施設の利点、互いの機能を効果的に発揮できたと認識している。</p>
協議会 評価	根拠	<p>療養病棟の入院患者のうち、医療区分2、3という重症の方を8割以上とすることで、療養病棟入院基本料の施設基準を1に変更し、診療報酬の増収に取り組んだ。その結果、医療区分1の方々を受け入れにくくなったが、その方々については老健で受入れることで、施設を稼働させており、複合施設の利点、互いの機能を効果的に発揮していると評価できる。</p>

⑤退院・退所後も、家族等の支援や在宅でのリハビリテーションの支援等により、在宅生活を支援しているか

【参考指標】通所リハビリテーションの実績(P4)、訪問リハビリテーション延利用者数の実績(P5)など

事業者 評価	根拠	<p>通所及び訪問リハビリテーションとも延利用者数は前年度並みであり、通所では、看護師を常時配置し医療依存度の高い利用者の受入(中重度ケア体制加算届出)を行い、在宅療養の支援機関として機能している。訪問では、利用者の機能改善によるリハビリ終了後の、通所介護や通所リハビリ等社会参加を維持できる他のサービス等への移行に取組み(社会参加支援加算届出)、成果を上げている。また、『知って得する！在宅ケア教室』(「自宅でできる予防リハビリ」等12回実施、参加者28年度159人、27年度182人)等を定期的に開催し、在宅で介護を行う方の相談に対応する等、適切に在宅生活の支援ができたと認識している。</p>
協議会 評価	根拠	<p>通所及び訪問リハビリテーションの延べ利用者数は堅調に推移しており、それぞれ加算の届出につながる充実した支援を行っている。また、区民向けイベントにより、家族等への情報提供や相談対応を計画的に実施しており、退院・退所後も在宅生活を支援していると評価できる。</p>

【その他】適切な機能水準が満たされているか

平成26年2月に日本医療機能評価機構の病院機能評価(一般病院1)を受審し、平成26年5月2日に認定を取得した。評価項目ごと、機能や業務水準について評価するとともに見直しを行っている。

(2) 効率性・経済性の評価

①台東病院の施設・機器等を効率的に活用しているか	
【参考指標】経営分析結果(P6)など	
事業者評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">B</div>	根拠 施設については、病床利用率が91.6%、1日あたりの外来患者数が261.8人であり、効率的に活用できたと認識している。医療機器(CT・MRI)については、検査依頼書をダウンロード可能にしたこと、撮影時間の一時間延長、読影報告の即日転送等もあり、検査件数は前年度と比べCTは267件増の2,965件、MRIは38件増の2,345件となった。しかし、同規模の医療機関との比較や区内医療機関の機器保有台数等より設定した目標件数(CT3,960件、MRI2,640件)に達しておらず、共同利用について地域連携室と放射線技師による区内診療所等へのPRを継続し、稼働率を維持・改善していく必要がある等、課題が残っていると認識している。
協議会評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">B</div>	根拠 施設については、病床利用率や1日あたりの外来患者数の実績が堅調であり、効率的に活用できていると評価できる。機器については、実績は上昇しているものの目標達成には至っておらず、院内の取組みだけでなく、他の医療機関に対する働きかけの内容も精査しながら、効率的に活用することが求められる。

②老人保健施設千束の施設等を効率的に活用しているか	
【参考指標】経営分析結果(P6)など	
事業者評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">A</div>	根拠 入所利用率は91.6%、1日あたりの短期入所者数は9.9人、1日あたりの通所リハビリ利用者数は42.5人であった。また、回転率は1.9ポイント上昇の11.5%となった。屋上リハビリ庭園を活用した園芸療法の実施や、エントランスホール等を活用した利用者の作品展等を通じ、利用者の社会参加を促す等、施設等を効率的に活用できたと認識している。
協議会評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">A</div>	根拠 近隣に新たに特別養護老人ホームが開設した影響により、入所利用率は前年度に比べ低下したが90%を超えており、通所リハビリ利用者数、回転数についても堅調に推移している。また、共用スペースでの多様なリハビリテーションの他、医療依存度の高い方の受け入れや看取り介護も実施するなど、多角的な運用を行っており、施設を効率的に活用していると評価できる。

③台東病院の事業運営の効率性は発揮されているか		※医業外収支は評価対象外
【参考指標】収支(P3)、経営分析結果(P6)など		
事業者評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">B</div>	根拠 前年度と比較し医業収益、医業費用はともに0.5%増加し、医業収益に対する費用比率は、給与費73.0%、委託費5.1%、材料費14.4%等であった。給与費については定期昇給や必要な人員確保もあり増加している。また、設備関係費については経年劣化による修繕・新規備品購入の増加が見られ、今後はより一層計画的な運用に努め、適正な経営に取り組む必要があると認識している。	
協議会評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">B</div>	根拠 療養病棟入院基本料2から1への施設基準の変更や、新入院患者数の増加により医業収益は増加したが、給与費や材料費、委託費の増加等に伴い、赤字幅が徐々に増加している。また、看護師の離職率が20%台となっている中、職員給与費比率は年々増加しており、さらなる運営の効率化に取り組む必要がある。	

④老人保健施設千束の事業運営の効率性は発揮されているか		※事業外収支は評価対象外
【参考指標】収支(P3)、経営分析結果(P6)など		
事業者評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">A</div>	根拠 前年度と比べ、事業収益は2.1%減少し、事業費用は1.3%増加したが、事業損益は9,329万円の黒字となった。近隣の特別養護老人ホーム新規開設に伴う影響もあり、年間入所利用率は91.6%となったが、平成29年3月の単月では94.5%まで改善した。また、短期入所者数も1日あたり9.9人と前年並みとなっており、空床を有効活用できたことから事業運営の効率性は発揮されていたと認識している。	
協議会評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">A</div>	根拠 近隣に特別養護老人ホームが新規開設した影響により、前年度に比べ入所利用率が減少する等し、事業収益は減少したが、年度末に向け利用率は改善が見られる。また、給与費の増加等に伴い事業費用は増加しているが、事業損益は黒字を維持しており、経営状況は良好であることから、効率的な運営が行われていると評価できる。	

(3) 計画性・改善状況等の評価

①前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか

【参考指標】平成27年度評価表(別紙)など

事業者 評価 A	根拠	前年度の運営協議会であがった、『食事の工夫』については、塩分計を使用し味にむらが生じないようにする、おせち料理やひなまつり等の年20回以上の行事食の提供を行う等している。『スタッフの定着率』については、同好会結成を検討したり、講習会、研修会等の参加を促したり、新卒者の採用を行うことで定着を図っている。『悪天候時の利用者・スタッフの安全確保』については、通所・訪問系サービスについて安全対策マニュアルを作成し、地震等の非常災害時等も含め、サービス提供の可否の判断や、利用者等への連絡、指示系統について定めている。以上のような取組みを行っており、意見を運営に活かすことができた」と認識している。
協議会 評価 A	根拠	スタッフの定着率については、定着率向上のために新卒者の採用を増やしたり、定着率を上げることで派遣に係る費用を削減し、収益改善に向けた努力をしている。また、その他の課題についても、それぞれ具体的な対策を講じ、満足度向上や安全性の確保に取り組んでいることから、運営協議会の意見を運営に活かしていると評価できる。

②利用者や区民の意見を取り入れ、台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか

【参考指標】投書件数、主な意見と対応(P6)

事業者 評価 A	根拠	患者相談窓口や、各部署、投書箱(皆さまのお声)への投稿等様々な場所にて頂いた意見に対し一括管理をし、幹部会議、皆さまのお声委員会にて多職種間での検討、共有、協議、改善を行っている。また、患者満足度調査を定期的実施し改善に努めている。利用者・区民の意見を取り入れ運営に活かすことが出来ていると認識している。
協議会 評価 A	根拠	患者・利用者からいただいた意見について管理する体制を整えており、定期的な会議において検討が行われている。提案、助言に対しては、適切に対応し改善が図られており、患者満足度についても、5点満点で入院部門では28年度4.75点(前年度4.49点)、外来部門では28年度4.79点(前年度4.30点)と向上していることから、利用者の意見を運営に活かしていると評価できる。

③区立の病院・老人保健施設だからこそできる役割を果たしているか

事業者 評価 A	根拠	台東病院では、『街かど健康教室』・『知って得する！在宅ケア教室』・『禁煙教室』などの区民向けイベントが好評を博しているため今後も行う。また、病院においては、認知症、生活困窮者、住所不定者、虐待が疑われる社会的問題を抱えた患者等の受入、老健においては、他の施設での入所が難しいとされる在宅復帰が困難な利用者、医療依存度が高い利用者等の受入を行っており、区立施設としての役割を果たすことができた」と認識している。
協議会 評価 A	根拠	台東病院ではイベント等の開催を毎年定期的実施しており、その取り組みは区民や医療機関の間で定着してきた。また、他の医療機関・施設での対応が困難な方々について、積極的に受入れており、区立の施設だからこそできる役割を果たしていると評価できる。

④計画性を持って、台東病院・老人保健施設千束を運営しているか

事業者 評価 A	根拠	毎週の幹部会議や毎月の事業推進会議にて、運営状況の確認や課題の検討を行い、朝礼、研修会等で職員が病院のありかた、目指すべき方向を認識できるようにしている。また、多職種によるワークショップを行い、将来像や改善策を協議した結果を運営に取入れたり、当直帯の徘徊等困難事例への対応等について共有し、ケアの質を高められた。部門・部署毎では、年間目標の達成に向け進捗状況を管理しながら業務改善に取り組み、年度末の全部署参加の報告会にて評価・検証を行う等、計画的に施設を運営することができた」と認識している。
協議会 評価 A	根拠	各会議体等の設置により、職員が施設の方向性について共通認識を持てる体制づくりに努めている。さらにワークショップの開催により、目指すべき将来像に向けた意思決定に職員が参画している。また、課題への対応を組織として情報共有し、業務改善に活かしており、計画性を持って施設を運営していると評価できる。

5 総合評価等

【総合評価】

台東病院については、療養病棟の施設基準の変更や近隣での特別養護老人ホームの新規開設の影響により病床利用率はやや低下したが、90%を超えており堅調に推移している。また、新入院患者数や在宅復帰率、台東区民の患者割合は増加している。CT・MRIの共同利用の推進について課題はあるものの、退院前カンファレンスや、外来部門の紹介、逆紹介件数は上昇し、連携の強化にも取り組んでおり、高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。

老健千束については、病院以上に特別養護老人ホームの新規開設の影響を受け、入所利用率や在宅復帰率が低下した。しかし、特養開設前は在宅復帰率について目標値を超えており、年間でもスタッフが一人丸となって退所支援を凶ったことで目標値に迫る数値まで改善しており、在宅復帰に向けた入所施設として機能していると評価できる。また、病院で受け入れできなかった医療依存度の高い方を受け入れ、病院と連携しながら機能を効果的に発揮していると評価できる。

収支については、台東病院の医業収益は増加したが、給与費等の上昇により赤字幅は徐々に増加している。一方、老健千束は特養開設の影響を受け事業収益は減少したが、事業損益は黒字を維持している。台東病院においては、職員給与比率の減少等により収支の改善に取り組む必要があるが、施設全体では損益は黒字となっており、経営状況は概ね良好であると認められる。

その他、「皆さまのお声委員会」等により利用者や区民の意見を取り入れることで業務改善を凶ったり、各会議体等により職員が、病院・施設の意思決定に参画しており、計画的な運営を行っている。また、他の病院・施設では対応が困難な方の受け入れを行い、区立施設としての役割を果たしている。

【その他意見】

- 待ち時間の解消だけでなく、待つ方への配慮もしてほしい。
- 空床ができないようにしつつ在宅復帰率も高める取組みを、病院と老健が連携しながら行ってほしい。
- 職員のメンタル面のケアも含めた、働きやすい職場環境を作ってほしい。